

1. 主題構成表

主題名 奉仕する喜び

資料名 ボランティアクラブに入って 出典:(文溪堂)

■ 内容項目 C - (1 4) 勤労、公共の精神 (高) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	■ 内容項目から見た児童の実態 (意識) ・ 1 家庭 1 ボランティアや地区ごとの奉仕作業などの与えられた行事には、進んで取り組み、全員が行うような奉仕活動には参加しようとすることができる。 ・ 自分たちの学校をよくしたいという思いから委員会活動を行ったり、美しくしたいという思いから真面目に掃除を行ったりする児童は少ない。 ■ 要因 ・ 決められた活動は行いが、働くことの喜びや誰かのために働く充実感を得た経験が少ない。そのため、形だけの参加や、自分がやりたいことを優先させたり、人任せにしたりしてしまう。	■ 資料の分析 ・ 本資料は、友達に誘われてボランティアクラブに入った優香が、老人ホームでの活動に不安を感じ、戸惑いながらも、そこで出会った耳が聞こえないおばあさんと心温まる交流をし、充実感を味わうという内容である。奉仕する喜びを味わった経験が少ない子ども達に、主人公の気持ちに迫り、奉仕の意義について考えさせることができる資料である。 ・ 老人ホームを訪問するといった初めての経験に対する不安や、おばあさんに返事をしてもらえず戸惑う優香の気持ちに共感することができる。 ・ 優香がおばあさんのために何かしようと考え、勇気を出して手話をつけて歌を歌うと、おばあさんは優香の手を取り涙を見せる。この無言のやりとりに充実感を味わい、次回の訪問への意欲をふくまらせる。相手の気持ちを考えて誠意をもって行動したことにより人のために働く喜びを味わい、進んで人の役に立つことの素晴らしさに気付くのである。
■ 価値の分析 ・ 「奉仕する喜び」とは、集団の一員として周りの人たちのために活動して得られる充実感、自己有用感のことである。人は、社会の中で人と関わり合って存在し、支え合うことによって社会が成り立っている。見返りを求めず、自分の仕事によって喜ぶ人がいることや、社会生活が豊かになることを実感することが大切である。 ・ 高学年では、社会への奉仕活動など、公共のために役立つ行動に目を向けさせ、集団のために進んで役立つとする心を育てることが大切である。 ・ この時期の児童は、学校や家庭でそれぞれ役割をもち、活動することによって、周囲のために働くことの意義を感じ始めている。そこで、自分の行ったことが社会のために役立っていることを実感させることが大切である。社会に奉仕することの心地よさを味わわせることによって、進んで公共のために役に立とうとする心情を養っていきたい。		

■ ねらい 周りの人のために活動することが自分の喜びにつながったり、充実感を得たりすることに気付き、進んで公共のために役に立とうとする心情を養う。

■ 他の教育活動との関連 係・委員会・当番活動 決められた活動だけでなく、自分で考えて周りのために活動している子を価値付ける。		
■ 事前 帰りの会 よいことみつけ よいことみつけで、トイレのスリッパを揃えている子や雑巾を整頓している子など、みんなのために進んで働いている子を紹介し、価値付ける。	■ 本時 「ボランティアクラブに入って」	■ 事後 計画委員によるボランティア 学校におけるボランティア活動の内容を理解し、学級や学校のために進んで活動しようという意欲をもたせる。

■ 「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない)

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	事前にとったアンケートに対する意識調査の結果を紹介し、価値への方向付けをする。 ○周りの人のために何をしましたことがありますか。	・事前の実態調査をしておいて、意図的指名をする。
展開前段	資料を読み、主人公の気持ちや行動について話し合う。 ○感想を発表しましょう。 ・優香は、おばあさんに返事をしてもらえないことにとまどって、立ちすくんでしまったところが分かります。 ・優香がおばあさんの前で手話をつけて歌を歌ったことがすごいと思いました。 ・「また、来ます。」と言ったのはなんでだろう。 ○おばあさんの部屋の前で立ちすくんでしまったとき、優香はどんな気持ちだったでしょう。 ・返事がしてもらえない。不安だなあ。 ・やっぱり来なければよかった。 ・部屋に入るのが嫌だなあ。 優香の仕事は掃除をすることなのに、どうして手話をつけて歌を歌ったのでしょうか。 ・ほうきではなく真似をしたら喜んでくれたから、もっと喜んでもらいたいから。 ・おばあさんのために何かできることをやりたいから。 ・少し耳が不自由だから、手話で気持ちを伝えようと思ったから。 深めの発問 ○手話の歌は、覚え立てで自信はなかったんじゃないの？ ・自信は無かったけど、おばあさんの笑顔を見て、もっと喜んでほしいと思ったから。 ・掃除をしておばあさんに喜んでもらえたことが嬉しくて、もっと喜んでもらいたいと思ったから。 ○涙を流すおばあさんの手を包んで「また、来ます。」と言ったとき、優香はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・おばあさんがすごく喜んでくれて良かった。次も喜んでもらえるといいな。 ・老人ホームを訪問して良かったな。次も自分にできることを見つけて、おばあさんの役に立ちたいな。 周りの人のために働くことで、相手も自分も嬉しい気持ちになる。	・感想をもつ視点を与えて範読する。 ・優香が友達に誘われて安易な気持ちで始めたことを押さえてから範読をする。 ・本時の発問につながる感想を板書に位置づけ、焦点化を図る。 ・老人ホームへ来るまでも憂鬱であったことを押さえ、さらには部屋に入るときには大きな緊張と不安で戸惑っている優香の気持ちに共感できるようにする。 ・おばあさんにもっと喜んでもらいたいと思い、考えて、勇気を出して行動した優香の気持ちに共感できるようにする。 ・深めの発問をすることにより、やるべき仕事だった掃除をするだけでなく、おばあさんのために進んで何かをしようという気持ちに変化してきたことに気付くようにする。 ・掃除から手話が終わった後の中で、おばあさんの変化にも着目させることで、おばあさんの喜びに気付くようにする。 ・おばあさんの涙を見て、自分が相手の役に立ったという実感をし、奉仕することの喜びや充実感を味わっている優香の気持ちに共感できるようにする。相手の喜びから自分も喜びを味わい、進んで誰かの役に立つような活動をしたいと願う。(自己啓発力)
展開後段	自分の生活を振り返る。 ○周りの人のために働いて、嬉しくなったことはありますか。 ・トイレのスリッパがぐちゃぐちゃだったとき、自分から揃えることができました。揃ったスリッパを見ると、次の人が気持ちよく使えると思い、なんだか嬉しくなりました。	・想定される場面の写真を掲示し、様々な場での振り返りを促す。 ・行動だけを書いている児童には声をかけ、内面で感じている価値を引き出す。
終末	2年生からのメッセージを紹介する。	・奉仕する喜びを感じ、人の役に立つ活動をしていきたいという気持ちを高める。